

Lモード端末に音声読み上げ機能を搭載 福祉関連をターゲットに年間10万台を目指す

Lモード対応端末の有力ベンダーである鳥取三洋電機は2002年3月25日、テ・ブ・ラ・コードるすFAX『SFX-LP60』を市場投入した。高齢者が利用しやすいように音声読み上げ機能を搭載。まずは介護福祉用途を睨み、拡販を進めていく。

高齢者でも容易な利用を実現

2002年2月にNTT東日本が発表した「Lモード利用実態調査」に見られるように、現在のLモードのメニュー層は、男性で60歳代以上、女性で40～50歳代となっている。このため鳥取三洋電機では、「高齢者でも容易にインターネット情報サービスを受けられるようにする」をコンセプトに開発を進めた。

まず考えられるのは、大型カラー液晶画面を採用して、より見やすさを追求することだ。しかし、画面をいくら大きくしても、一度に表示可能な情報量には限界があり、表示されない情報を読むためにはスクロールが必要で、使い勝手の面で不十分といえる。そこでCE事業部情報企画部の原田利之部長は、「音声で読み上げる仕組みでその点を補えば、画面の大きさ以上の効果を生み出せる」と説明する。同社は、『SFX-LP60』に独自のLモードコンテンツ対応「音声読み上げ機能」を搭載し、音声ガイダンスによる簡単操作を



SFX-LP60

可能にした。

音声読み上げ機能は、音声合成エンジンを本体に内蔵することで実現。コンテンツ作成者は、ブラウザの記述フォーム内に、音声変換したいテキスト文章をタグで囲んで入力すればよい。あとは音声合成エンジンが、タグを認識してそのテキスト文章を吸い上げ、音声に自動変換してくれるのである。

このほかにもSFX-LP60は、①出力データの空白部分でインクリボンの巻き取りを止め印字精度を変えずにリボン使用量を約40％節約する「インクリボン節約機能」、②必要設置奥行き259mm（トレイ付き）という省スペースを実現、等の特徴も兼ね備えている。

簡易CRMと連携し コンテンツを拡充

鳥取三洋電機ではSFX-LP60の販売対象として、まず高齢者福祉サービスに焦点を当てている。第1号ユーザーは東京都・府中市役所で、180台を導入し、4月から介護福祉を中心とした情報サービスを開始した。

次の展開としては、福祉関連のソフトウェアで業界2位のシェアを持つ日立プラントが開発した音声Lモード向け「簡易CRMシステム」を利用する。具体例を示すと、在宅介護サービスの



CE事業部情報企画部
原田利之部長

場合、事業者が簡易CRMシステムを利用して訪問介護の日程を音声機能付きメールで送付する。それを受けた高齢者は、メールの音声ガイダンスにしたがって端末のボタンを操作し、「はい」、「いいえ」の返答を行う。

鳥取三洋電機と日立プラントなどでは、このシステムを利用して、介護福祉等の自治体のコンテンツだけでなく、預金残高確認や引き落とし・振り込み等の地方銀行/信用金庫のコンテンツ、商店所在地や商品案内等商店街のコンテンツ等、さまざまな地域事業者と連携して高齢者向けの音声情報コンテンツを充実させる方針。今後は他の自治体や福祉事業者等へ拡販を図り、年間10万台の販売を目指す。

お問い合わせ先

鳥取三洋電機株式会社

CE事業部情報企画部

〒570-8677 大阪府守口市京阪本通2-5-5

TEL: 06-6994-6691

URL: <http://www.torisan.co.jp/joho/>